

2024年1月9日

原子核談話会事務局 田中 良樹

「核物理委員会委員の選挙について」

原子核談話会の執行機関である核物理委員会委員の任期が2024年3月31日をもって終了します。原子核談話会規約第7条の規定により、次期委員の選出を下記の要領にて行います。別紙に資料として、現在の委員名簿と今回の候補者一覧と推薦・抱負文を添付しましたのでご参照下さい。

1. 任期 : 2024年4月1日～2026年3月31日（2年間）
2. 選出人数 : 45歳未満の候補者2名と残る候補者から10名
3. 被選挙資格 : 事前に立候補した、または推薦された候補者

[投票方法]

- WEBシステムによる電子投票で6名連記
- はじめに、2024年4月1日において45歳未満の候補者から上位2名を選出し、さらに、残る候補者から上位10名を選出します。
- 原子核談話会に登録されているメールアドレス毎に投票権を与えます。
- 別途送付されるメールにあるリンクからシステムにログインし、投票してください。
- 投票は一回で確定します。投票完了後の投票内容変更やリセット等は事務局でもできませんのでご注意ください。
- ご不明な点は、核談事務局（kakudan@rcnp.osaka-u.ac.jp）までお問い合わせください。

投票締切日：2024年1月23日（火） 23：00

添付書類

- （資料1）現 核物理委員会委員名簿
- （資料2）核物理委員会 候補者・推薦者リスト
- （資料3）核物理委員会 抱負文・推薦文

(資料1) 現 核物理委員会委員名簿 (2022年4月～2024年3月)

| | |
|--------|---|
| 核物理委員長 | 川畑貴裕 (大阪大学) |
| 副委員長 | 永江知文 (京都大学) |
| 幹事 | 三輪浩司 (東北大学) 青井 考 (大阪大学RCNP) |
| 委員 | 上坂友洋 (理化学研究所) 小沢恭一郎* (KEK) 志垣賢太* (広島大学) 鈴木大介 (理化学研究所) 関口仁子 (東京工業大学) 銭廣十三 (京都大学) 民井 淳 (大阪大学) 田村裕和* (東北大学) 中村 哲 (東京大学) 中村隆司* (東京工業大学) 成木 恵* (京都大学) 藤岡宏之 (東京工業大学) 若狭智嗣* (九州大学) 和田道治 (KEK) |
| 陪席 | 田中万博 (KEK) |

*) 補充委員 (注1)

職指定委員 (注2)

櫻井博儀 (理化学研究所)
斎藤直人 (KEK素粒子原子核研究所長)
中野貴志 (大阪大学RCNPセンター長)

連携委員 (注3)

小林 隆 (J-PARCセンター長)
酒見泰寛 (東京大学CNSセンター長)
大西宏明 (東北大学ELPHセンター長)

注1 選挙後、地域や分野などを考慮して委員に加えられました。

注2 職指定委員は共同利用研究所の所長・センター長として委員会に参加して頂いております。自動的に委員となりますので被選挙資格はありません。

注3 連携委員は、J-PARCセンター、東北大ELPH、東大CNSの代表の役目を兼ねる委員です。施設の長が原子核談話会会員の場合、被選挙権を持ちますが、本人が選挙で選ばれなかった場合には連携委員として委員になっていただきます。施設の長が原子核談話会会員でない場合には、自動的に連携委員となっていただきます。連携委員は、ex-officio委員と異なり、委員会への出席にあたって代理を指名できます。

(資料2) 核物理委員会 候補者・推薦者リスト

| 立候補/ 推薦 | 候補者 氏名 45歳未満か? | 候補者 所属・職 | 推薦者 氏名 | 推薦者 所属・職 |
|------------|-------------------|---------------------------------|------------------------------------|--|
| 推薦 | 青井 考 | 大阪大学 RCNP・教授 | 上坂 友洋 川畑 貴裕 中村 隆司 | 理化学研究所 開拓研究本部・主任研究員 / 仁科センター・部長 大阪大学 理学研究科・教授 東京工業大学 理学院・教授 |
| 推薦 | 今井 伸明 | 東京大学 CNS・准教授 | 関口 仁子 | 東京工業大学 理学院・教授 |
| 推薦 | 上坂 友洋 | 理化学研究所 開拓研究本部・主任研究員 / 仁科センター・部長 | 青井 考 川畑 貴裕 | 大阪大学 RCNP・教授 大阪大学 理学研究科・教授 |
| 推薦 | 大西 宏明 | 東北大学 ELPH・教授 / センター長 | 石川 貴嗣 野海 博之 | 大阪大学 RCNP・教授 大阪大学 RCNP/KEK 素核研・教授 |
| 推薦 | 小沢 恭一郎 | KEK 素核研・准教授 | 石川 貴嗣 郡司 卓 田中 万博 | 大阪大学 RCNP・教授 東京大学 CNS・准教授 KEK 素核研・研究員 / 名誉教授 |
| 立候補 推薦 | 川畑 貴裕 | 大阪大学 理学研究科・教授 | 上坂 友洋 | 理化学研究所 開拓研究本部・主任研究員 / 仁科センター・部長 |
| 立候補 推薦 | 郡司 卓 | 東京大学 CNS・准教授 | 大田 晋輔 小沢 恭一郎 後藤 雄二 本多 良太郎 | 大阪大学 RCNP・准教授 KEK 素核研・准教授 理化学研究所 仁科センター・前任研究員 KEK 素核研・准教授 |
| 推薦 | 澤田 真也 | KEK 素核研・教授 | 野海 博之 | 大阪大学 RCNP/KEK 素核研・教授 |
| 推薦 | 志垣 賢太 | 広島大学 先進理工系科学研究科・教授 | 後藤 雄二 | 理化学研究所 仁科センター・前任研究員 |
| 推薦 | 清水 裕彦 | 名古屋大学 理学研究科・教授 | 梅原 さおり 嶋 達志 | 大阪大学 RCNP・准教授 大阪大学 RCNP・准教授 |
| 推薦 | 鈴木 大介 (45歳未満) | 理化学研究所 仁科センター・研究員 | 青井 考 中村 隆司 | 大阪大学 RCNP・教授 東京工業大学 理学院・教授 |
| 推薦 | 関口 仁子 | 東京工業大学 理学院・教授 | 上坂 友洋 中村 隆司 | 理化学研究所 開拓研究本部・主任研究員 / 仁科センター・部長 東京工業大学 理学院・教授 |
| 推薦 | 民井 淳 | 大阪大学 RCNP・教授 | 青井 考 | 大阪大学 RCNP・教授 |
| 推薦 | 田村 裕和 | 東北大学 理学研究科・教授 | 川畑 貴裕 三輪 浩司 | 大阪大学 理学研究科・教授 東北大学 理学研究科・教授 |

| 立候補/ 推薦 | 候補者 氏名 45歳未満か? | 候補者 所属・職 | 推薦者 氏名 | 推薦者 所属・職 |
|------------|-------------------|-----------------------------------|-------------------------|---|
| 推薦 | 中村 哲 | 東京大学 理学系研究科・教授 | 三輪 浩司 | 東北大学 理学研究科・教授 |
| 推薦 | 中村 隆司 | 東京工業大学 理学院・教授 | 青井 考 | 大阪大学 RCNP・教授 |
| 推薦 | 成木 恵 | 京都大学 理学研究科・教授 | 川畑 貴裕 野海 博之 | 大阪大学 理学研究科・教授 大阪大学 RCNP/KEK 素核研・教授 |
| 推薦 | 西尾 勝久 | 日本原子力研究開発機構・グループ リーダー / 研究フェロー | 青井 考 | 大阪大学 RCNP・教授 |
| 推薦 | 橋本 直 (45歳未満) | 日本原子力研究開発機構・研究副主 幹 | 中村 哲 | 東京大学 理学系研究科・教授 |
| 推薦 | 藤岡 宏之 (45歳未満) | 東京工業大学 理学院・准教授 | 梅原 さおり 嶋 達志 清水 裕彦 | 大阪大学 RCNP・准教授 大阪大学 RCNP・准教授 名古屋大学 理学研究科・教授 |
| 推薦 | 本多 良太郎 (45歳未満) | KEK 素核研・准教授 | 磯部 忠昭 | 理化学研究所 仁科センター・専任研 究員 |
| 推薦 | 三輪 浩司 | 東北大学 理学研究科・教授 | 上坂 友洋 中村 哲 | 理化学研究所 開拓研究本部・主任研 究員 / 仁科センター・部長 東京大学 理学系研究科・教授 |
| 推薦 | 山口 貴之 | 埼玉大学 理工学研究科・教授 | 上坂 友洋 | 理化学研究所 開拓研究本部・主任研 究員 / 仁科センター・部長 |
| 推薦 | 若狭 智嗣 | 九州大学 理学研究院・教授 | 関口 仁子 | 東京工業大学 理学院・教授 |
| 推薦 | 渡邊 裕 | KEK 素核研 和光原子核科学センタ ー・教授 | 和田 道治 | KEK 素核研 和光原子核科学センタ ー・教授 |

青井 考 (大阪大学 RCNP・教授)

核物理委員候補に推薦頂きありがとうございます。現在の日本の核物理およびその関連分野は世界をリードする研究施設を数多く持ち、大規模施設から中規模、小規模施設に至るまで、それぞれ特徴のある研究を推進し世界を牽引しています。加えて近年ではアジア欧米でも新しい施設の建設が稼働をはじめると、曲面を変えつつあります。こうした好機に各施設とそこで活躍する研究者がそれぞれの強みを生かして連携し、原子核物理やその関連分野が大きく飛躍するよう微力ながら貢献できればと思います。

推薦者 上坂 友洋 (理化学研究所 開拓研究本部・主任研究員 / 仁科センター・部長)

青井さんは、RIBFとRCNPという日本の低エネルギー原子核の二大拠点をよくご存知で、双方において大きく研究展開されています。現在共に日中韓フォーサイト事業の推進も行っておりますが、東アジアでの原子核物理の発展を考える上でも必要な方だと考えます。様々な研究に対してバイアスのない極めて公正な見解をお持ちで、バランスのとれた視点から核物理委員会の議論に貢献されています。これまで同様核物理委員会に貢献していただきたいと考えます。

推薦者 川畑 貴裕 (大阪大学 理学研究科・教授)

大阪大学核物理研究センターにおけるサイクロトロン実験の責任者として研究を推進しておられます。核物理研究センターの将来計画の検討は、コミュニティにとって重要な課題であり、これを検討する上で、必ず核物理委員会に加わっていただくべき方であると考えます。

推薦者 中村 隆司 (東京工業大学 理学院・教授)

青井氏は、幹事や副代表として核物理委員会の活動に長年多大な貢献をしてきました。「原子核研究」の編集長も長年務められ、現在はJSTの日中韓フォーサイト事業の代表をされるなど、核物理コミュニティの活動では不可欠な人です。引き続き核物理委員としての活躍を期待します。

今井 伸明 (東京大学 CNS・准教授)

この度は推薦、誠にありがとうございます。大変光栄に存じます。中堅の枠を超えて成長しなければならぬと感じている今日この頃です。

低エネルギー核物理分野は、理研のRIBFが独壇場であった時代から、アメリカのFRIBや、中韓の次世代加速器が同時に稼働する群雄割拠の時代に移り変わりつつあると感じています。引き続き、日本が核物理のフロンティアに立ち続けられるよう、努力していきたいと思います。また、ミクロからマクロへの架け橋となる核物理の独自の立場を意識し、他分野の中での核物理の立ち位置を確立するためにも、アウトリーチも含めた活動を行いたいと思います。

推薦者 関口 仁子 (東京工業大学 理学院・教授)

今井さんは、東大CNSの若手・中堅の要として理化学研究所RIBFにおいて、OEDO-SHARAQプロジェクト等の短寿命核物理を推進されていらっしゃいます。更に大阪大学核物理研究センター研究計画検討委員会委員長も複数回おつとめになり、同センターの将来計画にも深く関わられています。核物理委員会に参画し頂き、今後の日本の核物理を牽引して頂きたい方です。

上坂 友洋 (理化学研究所 開拓研究本部・主任研究員 / 仁科センター・部長)

過分なご推薦をいただき、大変ありがたく思います。私が研究者として原子核分野を見てきた過去20-30年の間に、原子核物理学が学術界、社会において果たす役割は大きくなって来ています。これには研究そのものの進展もさることながら、核物理懇談会の総合力と核物理委員会のリーダーシップが果たしてきた役割が大きいという認識です。核物理委員に選出いただきましたら、RIBF高度化計画の実現、アジア地域での原子核物理研究の連携強化を進めると同時に、現在関わっているHIMACでの原子核物理研究再開への道を探ることなどを通じて、原子核物理学の発展に力を尽くしたいと考えています。

推薦者 青井 考 (大阪大学 RCNP・教授)

核構造・核反応研究の分野で中心となって活躍している研究者で、RIBFを牽引するとともに様々な加速器施設で研究を展開されています。ANPhA副委員長はじめ内外の各種委員会で要職を務めておられるなど現在でも核物理コミュニティの運営に深く尽力されており、核物理委員会になくってはならない方といえます。

推薦者 川畑 貴裕 (大阪大学 理学研究科・教授)

RIBF・RCNPで原子核内部でのクラスター相関を調べる新しいプロジェクトを牽引される一方で、各種の委員会では常にコミュニティ全体の発展を考えた見識のあるご意見を述べられています。引き続き、核物理委員としてコミュニティの発展にご尽力をお願いするべき方であると考えます。

大西 宏明 (東北大学 ELPH・教授/センター長)

次核物理委員会候補へのご推薦ありがとうございます。

J-PARCハドロンホール拡張計画、RIBFの高度化の実現という2つの大きな目標達成のためには、より強固なコミュニティの結束が必要だと考えています。そのために尽力していただけたらと考えています。

また、今後10年後、20年後を見据え、魅力的な次世代プロジェクトの策定は急務です。原子核コミュニティの中で議論が広がっていくよう努力したいと考えています。

最後に、現在共同利用・共同研究拠点のあり方が問われていると思っています。コミュニティの中で共同利用研の役割について議論し、本制度を次世代へつないでいくことに関わっていただければと思っています。

微力ながら、コミュニティ発展のために努力したいと思います。

推薦者 石川 貴嗣 (大阪大学 RCNP・教授)

東北大学電子光理学研究センターのセンター長として全国共同利用・共同拠点を運営し、同センターでの原子核理学（原子核実験、ハドロン物理実験、放射化学）を推進する。またイタリアDAΦNEやJ-PARCでのハドロン物理の研究を強力に推進すると共に、広い視野でハドロン物理を俯瞰しておられる。連携委員としてではなく、選挙で選ばれるべき方だと強く思う。

推薦者 野海 博之 (大阪大学 RCNP/KEK 素核研・教授)

大西氏は、これまで、高エネルギー重イオンビーム、K中間子ビーム、光子ビームを用いたハドロン物理研究において世界で活躍されている。「日本の核物理の将来」レポートにおいて、ワーキンググループの代表としてハドロン物理パートの執筆をけん引された。現在、氏は、東北大電子光理学研究センターのセンター長として核物理コミュニティの共同利用施設を運営する重要な役割を果たされており、引き続き、核物理分野の発展と将来計画実現に力を発揮してもらいたいので、核物理委員の候補者として強く推薦する。

小沢 恭一郎 (KEK 素核研・准教授)

核物理委員に推薦頂きありがとうございます。

原子核物理学は、原子核や核子の相互作用に対する理解を基本として、不安定核、中性子過剰核、ストレンジ核、ハドロン物理などにその研究分野を広げてきました。その結果、現状の原子核物理は、超冷中性子から高エネルギー重イオン衝突まで多種多様な研究テーマを持つに至っています。そのような多様な研究を、現場の声を反映させる形で、支えて発展させていきます。

特に、これまでの研究生活で培った様々な研究者との横のつながりを重視して、実験施設や研究課題を超えた共通の課題に対して少しでも改善できるように全力を尽くします。

よろしく願いいたします。

推薦者 石川 貴嗣 (大阪大学 RCNP・教授)

原子核媒質中でのメソンの質量の変化から、カイラル対称性の部分的回復に伴うクォーク凝縮の減少、ひいてはハドロンの動的な質量獲得の機構を探求する。ご自身の研究を強力に推進するだけでなく、J-PARCの施設メンバーとしてハドロンホールの拡張や高運動量ビームラインの建設を主導するとともに、各種委員を歴任し、核物理コミュニティの運営に協力してこられた。補充委員としてではなく、選挙で選ばれるべき方だと強く思う。

推薦者 郡司 卓 (東京大学 CNS・准教授)

小沢氏は、陽子ビーム、光子ビーム、重イオン衝突を用いてハドロン質量の起源に関する研究を進める世界的な研究者です。近年は、J-PARCの高運動量ビームラインを用いたE16実験の推進に中心的な役割を果たしており、その先の重イオン加速を見据えた研究も先導されています。国内外の研究者との交流も多く、若手の声と海外の動向をみながら、日本の核物理の方向性を議論して頂ける方として核物理委員に推薦いたします。

推薦者 田中 万博 (KEK 素核研・研究員/名誉教授)

小沢さんはKEK素核研の、高エネルギーハドロン物理の実験を代表する研究者であり、現在J-PARCにおいて、世界中から注目されている「ベクトル中間子の質量スペクトルの核物質内での変化」の実験 (E16) を率いて奮闘しています。小沢さんは単に優れた研究者であるばかりでなく、その視野、交友関係も広く、世界中の研究と研究者の動向に通じています。また、大学からKEKに移ってきた事からも判るように、学生に対する指導、面倒見の良さでは定評があります。私は「小沢先生の下で研究に打ち込みたい」という学生を何人も知っています。私はこのような小沢さんこそ、変わりゆく世界情勢に直面する日本の核物理を指導する核物理委員会の一員としてふさわしいと考えます。ついでにANPhAの仕事も (ちょっとだけ) 助けてもらえるとありがたいです。

川畑 貴裕 (大阪大学 理学研究科・教授)

2022年度から2023年度にかけて核物理委員長を務めています。前委員長としての経験を次期核物理委員会での議論の役に立てられればと思い立候補します。大学から選出された委員として、人材の供給源である大学と大型装置を有する研究所の協力関係をさらに強めていきたいと思います。また、若手の育成にも積極的に貢献していきます。一大学教員として学生教育や博士課程進学率向上に地道な努力を続けるとともに、核物理委員としてサマーチャレンジや高大連携にも積極的に取り組み、原子核物理分野が大学院生・学部学生を惹きつける魅力的な分野であり続けられるよう取り組みたいと思います。

推薦者 上坂 友洋 (理化学研究所 開拓研究本部・主任研究員 / 仁科センター・部長)

川畑さんは、ご自身のユニークなアイデアによるクラスター構造研究を展開されながら、これまでの2年間核物理委員長としての重責を果たされてきました。現在は理事として日本物理学会の運営にも貢献されています。阪大RCNPの運営や将来計画を考える上ではなくてはならない方であり、今後も核物理委員会で活躍していただきたいという思いから、推薦いたします。

郡司 卓 (東京大学 CNS・准教授)

核物理委員候補にご推薦頂きとても光栄に思います。私自身も、原子核物理全体の発展に尽力したいという思いから立候補させて頂きました。

私は、これまで米国BNL研究所や欧州CERN研究所を舞台にして、高エネルギー原子核物理を展開してきました。最近、米国BNL研究所に建設が決まったEIC計画に尽力しています。学術の世界的な動向と最先端の実験技術を見ながら、短期から10-20年先の長期に至るまで、諸外国との関係も含めた日本の原子核物理の発展に寄与したいと思います。

日本には、世界に誇る国内施設があり、かつ、国外施設を使った原子核物理を牽引してきた実績があります。しかしながら、ロードマップ2023からも分かる通り、我々の原子核物理の将来展望やその予算状況に関して、非常に厳しい目が向けられているのが現状です。このような状態が続けば、国際的にも日本が先導的な役割を担うことも難しくなるでしょう。クォーク・ハドロン・原子核のそれぞれの階層で、世界最先端の研究が展開され、これまでの限界を超える事象が探求されていることは素晴らしいことです。私自身はクォークとグルーオンの世界が研究中心ですが、強相関多体系の創発性としてハドロン生成や原子核の極限構造・集団性も非常に面白いと感じています。原子核物理は、自然科学のフロンティアを既存の学問領域を超えて切り開くチャンスがある分野であり、宇宙・化学・工学・医学・計算など様々な領域に波及する壮大な学術分野です。今一度、枠やキューの取り合いではなく、原子核物理の様々な階層分野を垣根を超えて強く連携し、一体感を高めながら、分野間や領域間の相互乗り入れの可能性も含め、全てにwin-winになるように国内外の最先端プロジェクトを戦略立てて進めることが重要だと思います。そして、原子核物理内の横の連携と協働、他の領域分野との交流を強化し、21世紀に相応しい分野・領域を超えた新しい学術を発信することも重要だと思います。若手からシニアまで、クォークから原子核まで、原子核物理から物性・工学などの他の領域分野まで、積極的な交流の機会（放談会や将来計画検討会等）を分野全体で作っていきたいと思います。また、社会に向けて積極的にアウトリーチ活動を展開し、社会の理解を得る努力を重ねて参ります。さらに、原子核物理が、学術・技術・ポストという点において、若い学生に「夢」を与えるような、十分に魅力のある分野であり続けるように努力していきたいと思います。最先端の実験技術も益々重要になってきます。限られた予算や人的資源のもとで効率的な開発が進むように、分野一体の開発体制や国際的な開発コラボレーションというのも重要になってきます。社会実装も視野に入れ、これまでとは違う視点や戦略が必要だと思います。大きな国際共同実験、国外で研究を行っている視点からこの点に関しても貢献できるものと思います。学術・技術・ポストという点から、予算化も含めた日本の原子核物理の発展と次世代の若手研究者の拡充に積極的に貢献できるように努力したいと思います。

推薦者 大田 晋輔 (大阪大学 RCNP・准教授)

郡司さんは米国、欧州での国際共同研究を主導的な立場で展開され、ALICE実験ではランコーディネータとして大規模な国際協力を成功に導いています。米国BNLでの次期計画EICでは国内の活動を主導し、核物理の将来レポートではWG代表として、すでに将来を担う中心人物の一人としての役割を果たされています。物理・装置開発ともに今後ますます重要となる国際協力の観点からも核物理コミュニティの発展、将来計画の検討には欠かせない人物として、核物理委員に強く推薦いたします。

(次のページに続く)

推薦者 小沢 恭一郎 (KEK 素核研・准教授)

郡司氏は、RHICやLHCでの国際協力実験に参画し、チャーム関連や電子対測定において、多くの物理成果を残されました。国際的にも、その活躍は認知されており、ALICE実験の実験コーディネータや各種実験の委員なども務められています。今後、EICを中心にQCDの実験的研究を核物理コミュニティの中心となって進める人物であり、核物理委員会に必要不可欠な人材として推薦します。

推薦者 後藤 雄二 (理化学研究所 仁科センター・前任研究員)

郡司さんは高エネルギー原子核物理を主な活動として牽引していますが、現在は特に米国のEIC加速器実験に対して日本グループを率いて参加する活動を進めています。国内・海外の原子核物理の領域全体を広く覆う見識を持ち、様々な問題に対処できる実行力を持っています。今後の原子核物理領域の活性化、将来計画に大きな役を果たす方として強く推薦します。

推薦者 本多 良太郎 (KEK 素核研・准教授)

郡司さんはPHENIXやALICE国際共同実験で活躍してこられ、大型実験のノウハウや技術をたくさん持っておられる。これらは日本の核物理をより発展させるために重要であり、核物理全体の国際的な相互協力・展開という観点から、今後の核物理コミュニティの発展には欠かせない人物であると考え、推薦します。

澤田 真也 (KEK 素核研・教授)

核物理委員候補として推薦いただき、ありがとうございます。

実験核物理分野を支える主要な大型加速器施設の一つであるJ-PARCに長年携わってきました。ここでの現在の研究を進め、また、核物理分野全体のことを考えながらその重要な将来計画であるJ-PARCハドロン実験施設の拡張を実現するには、多くの大学や研究機関のみなさんとともに計画を進めていくことが不可欠です。核物理委員会において大学や研究機関のみなさんと直接議論させていただく機会をいただければ、J-PARCでの研究や計画を進めることだけでなく、核物理分野全体にとって良い方向を見出すことができるのではないかと考えています。

また、原子核・ハドロン物理分野は、数年に一度の日米合同物理学会開催からもわかる通り、国際的なつながりが強い分野です。国内の研究機関を国外からの研究者が訪れ、国外の研究機関を国内の研究者が訪れるという相互の行き来ができるだけスムーズにできるような資金面を含めた方策を、継続的に考えていきたいと思えます。

推薦者 野海 博之 (大阪大学 RCNP/KEK 素核研・教授)

澤田氏はJ-PARCハドロン実験施設の保守・運転チームを率いてこられ、KEK, J-PARCの運営に貢献されている。現在のハドロン実験施設の充実と成果の創出はもとより、KEKの第4期中期計画で推進すべき最優先課題に選定されている核物理コミュニティの推すハドロン拡張計画の実現、およびその先の将来計画に繋げるために、氏はキーパーソンである。分野の基幹施設であるJ-PARCを盛り立てることが核物理分野の将来に重要と考えるので、核物理委員の候補者として強く推薦する。

志垣 賢太 (広島大学 先進理工系科学研究科・教授)

初めに、能登半島地震をはじめとする年初来の厄災に関連して、皆さまご自身は元より家族親族友人知人など関係する方々のご無事を祈念致します。

この度は核物理委員選挙に推薦をいただき感謝しております。2020年から同委員会に加わり、この間に並行して日本物理学会実験核物理領域の代表、副代表、プログラム委員を務めました。また、KEK素核研の研究計画委員としてロードマップ改訂に携わるなど、コミュニティのために皆さまの広範な意見を反映する役割を務めてきました。核物理委員会内でも、例えば若手選出制度WGの一員として前回の選挙から導入した45才未満枠2名の新設を提言しました。今後も同委員会が全ての核談会員からより近い存在になるよう微力を尽くさせていただければ幸いです。

研究面では高エネルギー原子核衝突実験を専門とし、長年に亘り米国BNLや欧州CERNを主舞台としてきました。次期計画としては2032年頃開始を予定する米国EIC加速器ePIC実験に参画しています。原子核-原子核衝突を用いクォーク対凝縮に関連するカイラル対称性回復現象の探索と、電子-原子核衝突を用いグルーオン凝縮に関連するアノマリーの探索により、物質質量の大半を占めるハドロン質量の発現機構を抉撃していきたいと考えています。ところで、高エネルギー原子核衝突実験のように国外で実験研究を行っている研究者やグループは珍しくありませんが、いくつかの分野には国内に実験拠点が存在しない特殊性もあります。核物理委員会での議論は必然的に日本の国内計画に関する議題が中心となりますが、直接の当事者とは多少なりとも異なる視点観点からの貢献が期待されていると自認しています。同時に、国外を拠点として進める日本グループの研究活動を日本国内での原子核物理の議論にどう乗せて分野全体の発展にいかに関係的に繋げていくのか。また、J-PARC-HIの議論をどう進め、国内外の他計画との整合を取りながら実現に繋げていくのか。さらに広島大学という地方中核大学からの視点も活かし、核物理委員会内において多様性と調和の均衡を取りながら、これまで以上に広範にかつ踏込んで貢献していく機会をいただけるなら、たいへん嬉しく思います。どうぞよろしくお願い致します。

推薦者 後藤 雄二 (理化学研究所 仁科センター・前任研究員)

志垣さんは高エネルギー原子核物理を主な活動として牽引しています。また国内・海外の原子核物理の領域全体を広く覆う見識と基盤を持ち、経験と実行力に基づき様々な問題に対する寄与を果たしています。今後も引き続き原子核物理領域の活性化、将来計画に大きな役を果たす方として強く推薦します。

清水 裕彦 (名古屋大学 理学研究科・教授)

隣接する階層が複雑に関わる原子核の物理は、それ自体が一つの学問分野であると同時に、複数の階層が本質的に絡み合う興味深い分野であると思います。さらに、実験的側面から見ると、比較的少人数で多岐にわたる高度計測技術を扱うという特徴を持っていると思います。これらの背景から、原子核物理学で育つ次世代の研究者は、物理とその応用を含めた多様な分野を横断的に推進する素養を持った人材を育む貴重な場でもあると考えられます。選出された折には、原子核物理の総合的な発展に寄与する所存です。

推薦者 梅原 さおり (大阪大学 RCNP・准教授)

清水裕彦氏は、中性子を用いた基礎物理研究を推進し、また、大学の研究科の教員として多くの若手育成にも尽力されてきた。最近では、中性子だけでなくニュートリノ・ミューオンを用いた基礎物理研究推進にも取り組まれておられる。異なるバックグラウンドをもつ研究者達の中で柔軟性と創造性を示されている清水氏は、カバーすべき研究分野がますます幅広くなっている核物理委員として適任と考え、清水氏を推薦する。

推薦者 嶋 達志 (大阪大学 RCNP・准教授)

近年、不安定核、ミュオン、中性子等のビームを供給する加速器施設が本格的な稼働体制に入り、それらを利用した原子核物理発の基礎物理学研究が発展しつつあります。また、「もんじゅ」の跡地に新しい研究用原子炉が建設されることになり、それを活用した物理研究の議論も始まっています。この状況下で、中性子基礎物理研究を先導しておられる清水氏が委員に加わることが核物理分野全体の発展に繋がると思い、推薦させていただく次第です。

鈴木 大介 (理化学研究所 仁科センター・研究員)

次期核物理委員候補としてご推薦頂きましたことに感謝申し上げます。

前回の選挙以来、この二年間で世界の状況は大きく変化しました。核物理の領域ではFRIBの始動やRCNP施設高度化をはじめ、国内外の加速器施設が様々な転機を迎えました。国内ではロードマップ・未来の学術振興構想などの将来計画が議論されました。変わりゆく情勢のなかで、核物理は転換期を迎えようとしています。コミュニティとして結束し、確固たる長期構想を描き、果敢に挑戦してゆくことが、世界をリードしてゆくうえで重要だと感じています。

核物理委員として、コミュニティの発展に微力ながら貢献させて頂きたく存じます。

推薦者 青井 考 (大阪大学 RCNP・教授)

鈴木氏は世界の加速器施設を股にかけ、自身で開発した様々な検出器を武器にして多様な核構造問題に果敢に挑戦されてきました。物理に対する見識の広さと深さには目を見張るものがあり、原子核分野の次世代を牽引する研究者の一人です。核物理委員会に新風を吹かせて頂くことを期待し、核物理委員に推薦いたします。

推薦者 中村 隆司 (東京工業大学 理学院・教授)

鈴木氏は現在も核物理委員会の委員であり、RIBF User Executive Committee ではVice chairを2019-23に務めるなど不安定核分野の中堅として核物理コミュニティの活動に貢献してきました。RIBFの将来を議論する国際WS(ADRIB24)を企画するなど、本分野の将来を牽引する研究者と思います。核物理委員会への貢献を期待し、推薦いたします。

関口 仁子 (東京工業大学 理学院・教授)

核物理委員に推薦頂きありがとうございます。委員に選出された際には、原子核物理分野の発展に微力ながら貢献したいと考えております。

現在、日本の原子核物理分野は、世界を牽引する実験施設を有する立場にあります。長年に渡って議論されてきた物理が、Made in Japan の成果としてようやく花開きつつあります。一方、その成果を踏まえ我々は、諸外国との関係も視野に新しい展開を考えて行かねばならない時期でもあります。10数年先の核物理や関連分野の議論に積極的に関わりたいと考えています。

また、大学教育に関わる立場から、若手の育成の重要性であると考えております。中でも、実験核物理にとって加速器実験による教育は非常に重要な項目と考えております。国内の中小規模の加速器施設における学生教育など、様々な形で若手育成の拡充を検討して行きたいです。

推薦者 上坂 友洋 (理化学研究所 開拓研究本部・主任研究員 / 仁科センター・部長)

関口さんは、少数核子系の物理で抜群の国際的ビジビリティをお持ちの方であり、最近新しくERATOプロジェクトを立ち上げられました。日本が強みを発揮してきたスピン偏極ビームやスピン偏極標的を用いた研究を牽引されている方である点も重要な要素だと思います。きめ細やかな視点をお持ちで、核物理委員会でもそのような視点からご意見をおっしゃっています。今後も核物理委員会には是非必要な方だという考えから推薦いたします。

推薦者 中村 隆司 (東京工業大学 理学院・教授)

関口氏は、核物理研究分野を代表する研究者で、猿橋賞など数々の受賞もされています。最近ERATO関口三体核力プロジェクトを開始され、同研究の拠点化を進めるなど日本の核物理に貢献されています。核物理委員をはじめRCNPの運営委員として、核物理コミュニティの活動にも貢献されており、引き続き核物理委員としての活躍を期待します。

民井 淳 (大阪大学 RCNP・教授)

ご推薦頂きとても名誉に感じております。

これまで、RCNPのグランドライデンを利用した国際・国内共同利用実験を中心とする研究・支援から、放射線に関する教育、大学での物理学教育などに仕事の範囲を広げてきました。

日本の核物理実験研究においてJ-PARC、RIBFの2大施設が走っているなかで、コミュニティとしてのサポートを考えていくとともに、核物理コミュニティの今後進むべき方向について両プロジェクトに現状で強く参加していない立場での意見をしたいと考えています。必ずしも大きな流れに沿わない機動に富んだ実験や、創意工夫、学際領域、国際化など研究におけるダイバーシティも、未来の核物理を担う基礎として重要な要素であると考えています。

核物理委員には前期から参加させて頂きました。この経験をもとにしながらも、核物理委員会の果たすべき役割について客観的な視点を失わずに発言をしていきたいと思っております。

推薦者 青井 考 (大阪大学 RCNP・教授)

民井氏は原子核の電磁応答およびスピンアイソスピン応答の研究分野ではまさに世界をリードしている研究者と言えます。iThemba lab や ELI-NP などとも強固な研究協力体制を確立しており、世界的な知名度も群を抜いています。核物理委員会において、不安定核とハドロンを中心とした現在の委員とは異なる視点からの活躍が期待されることから次期委員に適任であると考えます。

田村 裕和 (東北大学 理学研究科・教授)

ご推薦いただきありがとうございます。

日本の核物理は、J-PARC, RIBFなどの素晴らしい施設のおかげもあって世界をリードしてきましたが、運営費の不足と電気代高騰や、こうした施設の高度化の遅れのため、今後、日本の優位性が失われていくのではないかと心配しています。現状では予算を増やすことは容易ではありませんが、国民から広く支持が得られ、若者が集まるような研究やプロジェクトであれば発展するはずです。核物理委員会の特に重要な役割は、原子核物理の価値と魅力、将来展望を、国民や若い学生たちに伝えることだと思います。そのためにやるべきことがまだいろいろあると思っています。

若い方々に核物理委員として頑張っていただきたいのですが、私でも役立つことがあれば、しっかり努めたいと思います。

推薦者 川畑 貴裕 (大阪大学 理学研究科・教授)

学術会議の委員や物理学会の副会長・理事を歴任されており、その豊富なご経験に基づいて、核物理委員として、コミュニティーの運営に携わっていただきたく存じます。

推薦者 三輪 浩司 (東北大学 理学研究科・教授)

田村氏は、これまで核物理委員長や学術会議委員などを務め、核物理や広い科学の推進に強力にリーダーシップを発揮してこられました。今後の核物理のプロジェクトを進める上で、田村氏の広い見識やサイエンスへの深い理解に基づいた助言をいただくことが不可欠だと考え、田村氏を推薦いたします。

中村 哲 (東京大学 理学系研究科・教授)

核物理委員に推薦いただきありがとうございます。

現在、J-PARCハドロンホール拡張計画、RIBFアップグレード、米国におけるEICの議論などが本格化し国内外の核物理研究にとって極めて重要なプロジェクトが大きく前進しようとしています。コロナも終息し、国内施設、国外施設における国際共同研究が再起動、コロナ以前以上に活発に研究を推進しようという中で、世界の最先端で研究を推進してきた日本の核物理コミュニティが今後も最先端で研究を推進できるように、核物理委員という責任ある立場でコミュニティの発展に貢献できれば、とても嬉しく思います。大学に籍を置く者として次世代の研究者をどのように育成していくか、またこれまで国内外の加速器施設において研究を推進してきた経験を活かして日本の核物理研究をどのように牽引、発展させていくかについて、これまで以上に積極的に貢献できるよう努力したいと思います。

推薦者 三輪 浩司 (東北大学 理学研究科・教授)

中村氏は、海外施設でのハイパー核の研究を推進するとともに、国内でのハドロン実験施設の将来計画も中心となって検討されています。中村氏は、非常に高い見識、広い国際的なネットワーク、さらには大きな国際会議・スクールを取り仕切るマネジメント力を持ち合わせ、今後の核物理コミュニティを先導する上で欠かせない人物であると考え、中村氏を推薦いたします。

中村 隆司 (東京工業大学 理学院・教授)

昨年は、J-PARCでの電源火災、理研RIBFでの加速器故障によるビームタイムの大きなロスがありました。これは各施設の老朽化が一因と思われます。一方、HIMACでは核物理実験の利用が実質的にできなくなり、核物理にとって困難な時代がきたという危機感を持っています。こういう時期にあっても、核物理の研究者はさまざまな予算を獲得して、学生たちとともに、核物理の夢の実現に向けて日々前進しています。私は、みなさんが抱くさまざまな核物理の夢の実現に向けて、各加速器施設がロスなく運営されるように、核物理委員としてできる限りのことをしたいと思います。特に、HIMACでの核物理実験利用の再開に尽力いたします。また、RIBFの高度化などの核物理分野の将来計画が、学術研究のロードマップ2023に採択されなかったことにも強い危機感を持っています。どこが問題だったのかを精査し、一方で、将来計画のボトムアップ的醸成にも尽力したいと思います。

推薦者 青井 考 (大阪大学 RCNP・教授)

中村氏はRIBFにおける研究の柱の1つであるSAMURI計画を牽引してこられ、次々と重要な成果を上げられています。国内では大型科研費の代表者として辣腕を振るわれる一方で国際的な認知度も高く、原子核分野における中心人物の一人といえます。現核物理委員としても鋭い視点からの貴重な発言が多く、今後も引き続き活躍して頂くべく次期委員に推薦いたします。

成木 恵 (京都大学 理学研究科・教授)

私はこれまでKEK-PS・J-PARCを中心に中間エネルギーでのハドロン物理を進めてきました。J-PARCハドロン実験施設は完成から15年近く経ち、ようやく多彩な研究が展開されるようになりました。拡張計画および重イオン計画の実現に引き続き尽力したいと考えています。一方、今後の中長期的な分野の発展を考える上で、現行の施設や潮流にとらわれない多様なアプローチが重要であると感じています。実験核領域は原子核物理学とハドロン物理学を含む豊かな分野で、それらの融合的な研究も発展しています。研究のバラエティは若手のキャリアパスにとっても重要です。アジア、欧米との国際的な技術・研究協力も視野に入れながら、多彩で独創的な研究環境の実現に尽力したいと考えています。

推薦者 川畑 貴裕 (大阪大学 理学研究科・教授)

J-PARCでのハドロン物理学を推進されるとともに、京都大学の原子核ハドロン実験グループのリーダーでいらっしゃいます。また、物理学会の次期領域代表をお引き受けいただくことになっており、核物理委員会に加わっていただくべき方だと考えます。

推薦者 野海 博之 (大阪大学 RCNP/KEK 素核研・教授)

成木氏は主に高エネルギーハドロンビームを用いたハドロン物理を専門に世界で活躍されている。近年は、マルチストレンジネスバリオン励起状態の系統的測定によってクォーク相関を炙り出し、低エネルギーQCDの振る舞いを明らかにする実験研究を提案をされるなど、ハドロン実験施設拡張計画やその先の計画を含むハドロン実験施設におけるハドロン物理をけん引しておられる。氏は、核物理の将来を担う中心人物の一人であり、核物理分野の発展と将来計画実現に力を発揮してもらいたいので、核物理委員の候補者として強く推薦する。

西尾 勝久 (日本原子力研究開発機構・グループリーダー/研究フェロー)

JAEAタンデム加速器施設では様々な核燃料・RI標的を利用でき、これを活用することで、重い元素領域を対象として、核分裂、核反応、核構造、核化学に関する研究を進めてきています。また、原子力エネルギー利用に資する核データの研究を行っています。日本における核物理と原子力の分野間の協力関係は、これまで限定的であった印象を持ちますが、体系（星や原子炉）での核反応ネットワークなど、共通する概念があり、求められる理論や実験技術も共有するものがあります。微力ながら両分野に携わってきた者として、様々な課題に貢献したいと考えています。現在、タンデム後継機としての加速器を議論しており、これは同キャンパス内にある研究用原子炉やRI関連施設の併用も合わせ、重イオンビームを用いた科学・応用研究に広く活用いただけるもので、実現を目指して取り組んでいきたいと思っております。

推薦者 青井 考 (大阪大学 RCNP・教授)

西尾氏はJAEA極限重元素核科学研究グループのグループリーダーとしてタンデム加速器における核物理および核化学研究を牽引してこられました。ご自身でも超重核領域の重イオン核融合反応における変形効果の解明や核分裂片質量分布の対称・非対称性異常の発見など、重イオン核反応や核分裂機構の理解という古くて新しい問題に一石を投じる優れた研究成果をあげられています。同時に、アインスタイニウム標的を導入するなど、超重核領域における科学を展開する基盤を整備されている実績は、原子核コミュニティーにとって貴重なものと言えます。同グループの将来計画推進のためにも核物理委員会と密接な情報共有体勢を維持することが重要であると考え、核物理委員に推薦いたします。

橋本 直 (日本原子力研究開発機構・研究副主幹)

核物理委員の候補に推薦していただき大変光栄に思います。

私はこれまでJ-PARCハドロンを主戦場としてK中間子原子核に関する研究を行うとともに、原子・分子物理や宇宙物理分野の方と協力した学際的な枠組みでTESマイクロカロリメータの応用研究を進めてまいりました。これまでは現場での実験遂行に活動の重点が偏っていたこともあり大局的視点には欠けるかもしれませんが、コミュニティの存在は大規模施設を動かし個々の実験を遂行するうえでも重要であると感じています。一方で核物理委員会は正直言って遠い存在でしたが、私の世代もコミュニティのサポートに甘えるだけでなく牽引する側に加わるべき頃合いかと思えます。今後は若輩者なりに現状の私の立場ならではの貢献をできれば幸いです。

研究をとりまく環境、特に予算や人員の状況が厳しいことは理解しているつもりです。しかし過度に悲観的にはならず、世界的にも競争力がある現行施設での研究を楽しみながら着実に成果を上げ、それをベースに"明るい将来"を描いて切り拓いていく、そんな好循環の一助となるよう尽力したいと思えます。

推薦者 中村 哲 (東京大学 理学系研究科・教授)

橋本さんはTES検出器を駆使した原子核・原子分子実験を推進すると同時にJ-PARCにおけるストレンジネス核物理実験をリードする若手研究者です。今後、自分の研究グループを立ち上げ、研究の幅を広げ、日本の核物理コミュニティのリーダーの一人になると期待できる方であり、核物理委員に推薦させていただきます。

藤岡 宏之 (東京工業大学 理学院・准教授)

核物理委員にご推薦いただきありがとうございます。私はKEK-PSの運転終了およびJ-PARC建設という過渡期に大学院生となったため、イタリアのDAΦNEという加速器施設の実験でハドロン物理・ハイパー核の研究で博士号を取得しました。その後いろいろな方からお誘いを受けるなど共同研究を進展させる縁に恵まれ、ハドロン物理・ハイパー核物理だけでなく中性子基礎物理、最近では原子炉を用いた原子核物理の研究にも携わっております。

数種類のクォークが集まって出来たハドロン、そしてハドロンの多体系としての原子核を研究する原子核物理学の研究には多種多様な切り口があり、個々人の興味・好奇心に応じて研究を遂行していくことこそが分野の発展の原動力と考えます。実験のスタイルも画一的ではなく、国内外の競争や理論側からの要請を意識した達成目標、またそれを実現するために必要なリソースに応じて規模の大小も様々です。より多くの研究者（あるいは大学院生）の声を拾い上げることが求められる核物理委員会には、一般論として異なるバックグラウンドを持つ人が集まることで多様性の強みを発揮できるのではないかと考えます。

今年3月に東工大で行われる核談70周年シンポジウムには世話人として携わるとともに、日本における原子核物理学のこれまでの発展の歴史を辿り将来に思いを巡らせる貴重な機会として個人的にも心待ちにしています。核物理委員会の一員として再任することができたら、微力ですがコミュニティの発展のために尽力します。

推薦者 梅原 さおり (大阪大学 RCNP・准教授)

藤岡宏之氏は、ハイパー核物理・ハドロン物理だけでなく、中性子基礎物理・原子核物理など、幅広い分野にわたって研究テーマを持たれており、そのそれぞれで活躍されている。特定分野に縛られず異なる分野で成果をあげられている藤岡氏は、核物理コミュニティが関わる幅広い研究分野をカバーする核物理委員として適任と考え、藤岡氏を推薦する。

推薦者 嶋 達志 (大阪大学 RCNP・准教授)

藤岡宏之氏は、ハドロン物理、エキゾチック原子物理、中性子基礎物理など、核物理領域内の幅広い分野にかけて活躍しておられ、また日本物理学会・実験核物理領域の運営にも貢献しておられます。また最近、新しいテトラニュートロン探索法として原子炉を用いた手法を提案され、「もんじゅ」跡地に建設予定の研究用原子炉での研究テーマとして注目されています。若手研究者を代表するお一人として核物理委員会委員にふさわしい方と思い推薦させていただく次第です。

推薦者 清水 裕彦 (名古屋大学 理学研究科・教授)

大強度加速器を用いた二次粒子ビームの本格的利用が進む中、ハドロン物理や核物理が起点となった基礎物理や対称性の研究の飛躍的な発展が始まっています。藤岡宏之氏はこれらの分野にまたがって活躍中の若手研究者の中心人物です。引き続き藤岡氏に核物理委員会委員に就任していただくことで、核物理を軸とした研究を総合的な推進が加速され、核物理コミュニティ全体の発展につながると期待します。

本多 良太郎 (KEK 素核研・准教授)

核物理委員にご推薦いただき光栄に思います。私はこれまでJ-PARCのハイパー核実験に携わり、現在ではKEK素核研において素粒子原子核実験に必要な最新のデータ収集技術開発を専門としています。

DAQの高度化には新しい実験を可能するという即効性だけでなく、将来の実験や人材への長期的投資という面があります。しかし、近年テクノロジーが複雑になったことで単一機関によるDAQ開発が困難になり、発展的な技術開発に黄色信号がともっています。そのため、DAQ開発においても機関・施設の壁を越えて原子核コミュニティとして中長期ビジョンをもち、全体としてそれを支えていく必要があると考えています。Open-ItやSPADI-Aの活動はその一助であると信じております。

核物理委員に選出された際には、DAQ技術の観点から原子核物理の将来を考え、より一層の貢献ができるよう努力いたします。また、KEK素核研所属という立場を活かし、素粒子実験分野との連携を深めていきたいです。

推薦者 磯部 忠昭 (理化学研究所 仁科センター・専任研究員)

本多氏は読み出し回路のエキスパートであるハドロン研究者です。一言に読み出し回路と言っても様々ですが、その次世代化により新しい物理を切り拓いていくことも可能になります。一方で原子核実験の大型化複雑化に伴い、10年後、20年後の実験技術を見据えた広い視野でのR&D戦略はJ-PARC・RIBFといった国内基盤施設の次世代化と同等に必要だと思えます。本多氏は若手ながらOpenItやSPADIなど国内開発コミュニティへの貢献はフラットで大きなものであり、実験原子核物理学の将来を担っていく研究者であると強く思いますので核物理委員に推薦させていただきます。

三輪 浩司 (東北大学 理学研究科・教授)

2022年度から核物理委員をはじめを務めさせていただきました。この2年間については、原子核コミュニティがどのように運営され、今後のプロジェクトをどう進めようとしているかについて勉強しているうちに終わろうとしているのが実情です。ですが、この2年間に、未来の学術構想やロードマップなど将来計画に関わる議論が多くあり、核物理コミュニティの今後のプロジェクトを広く見渡させていただいたことは非常に有益でした。私自身も中心的に関わっている J-PARC ハドロンホールの拡張計画については、ユーザーとして実現を後押しすべく行動すると共に、KEK素核研のクロアポとしての仕事や所長の元に設置されてたハドロン推進会議での議論を通して施設側の目線を持つ機会が大きく増えました。核物理委員に選ばれた際には、J-PARCに加え様々な施設での現行プログラムや将来計画に目を向けながら、ハドロンホール拡張計画では中心的な役割を果たせるよう努力したいと考えております。この分野に多くの学生を呼び込み、将来活躍する若手を多く育成していくことが、将来のプロジェクトを実現させる上でもますます重要になっていると感じます。そのためにも、原子核物理の魅力を学生や一般の方も含めて伝えていくことにも尽力したいと考えております。

推薦者 上坂 友洋 (理化学研究所 開拓研究本部・主任研究員 / 仁科センター・部長)

三輪さんとは、KEK素核研研究計画委員会でご一緒しましたが、J-PARCハドロンホール拡張計画に並ならぬ意欲をお持ちで、かつ他分野に向けてもその物理の重要性は力強く主張できる方であることを知り、2年前に核物理委員に推薦しました。その後もハドロンホール拡張計画実現に向けて尽力されるとともに、核物理委員会でも活躍されています。今後も核物理委員として活躍していただきたいと思います。

推薦者 中村 哲 (東京大学 理学系研究科・教授)

三輪さんはハイペロン-核子散乱実験の世界的権威であり、J-PARCにおける将来計画等を牽引するリーダーの一人です。第6回日米物理学会合同核物理分科会においてもplenary speakerとして日本の核物理の将来計画について発表するなど、今後の日本の核物理の将来を議論する上で欠かせない人物です。このため核物理委員に推薦させていただきます。

山口 貴之 (埼玉大学 理工学研究科・教授)

核物理委員の候補者に推薦されたようですので、まずは御礼申し上げます。

多くの方が再選かと思いますが、私は初めて推薦されましたので自己紹介いたします。

私は大阪大学の杉本-南園グループ(当時)にて開発されたベータNMR法を用いて、核モーメント、超微細相互作用そして弱い相互作用の精密研究により学位を頂きました。その後、理研の谷畑グループ(当時)に加わり、中高エネルギー重イオン反応による不安定核のハロー構造や核半径等を研究しました(現在もRIBF, HIMACにて新しい方法論を開発するとともに中重核へ展開しています)。そしてGSIに渡る機会を得てMünzenberg氏、Geissel氏らと出会い、高エネルギー重イオン蓄積リング実験のユニークさに魅了されました。稀少なRIビームを周回させ、何度も利用する発想は今後のRIビーム実験の新機軸になるのではと期待しています。幸いなことに多くの方のご指導ご協力のもと、理研で新しい蓄積リングを建設するプロジェクトに参画することができました。現在、GSI/FAIR, 蘭州IMP, そして理研RIBFの世界で3つしかないRIビーム蓄積リングを駆使し、FRIBやTRIUMFではできない次世代のRIビーム実験を目指しております。

我々は今、お金、時間、人という研究に必要な要素が容赦なく削られる厳しい状況におかれています。日本経済がまわっていないことが一つの理由でしょうが、世界情勢が混沌としさらに追い討ちをかけています。そして、このような厳しい現実ゆえにどんな小さな組織にも以前にも増して明確なマネジメント力が求められるようになりました。私は小規模な大学に属する一教員なので、できることと言えば、夢を持って新しいアイデアを出すこと、(国際的にも)協働しあうことくらいです。ですがこれが誰しも確実にできることであり将来の道筋のように思っています。私の視点が日本の核物理のお役に立てるのであれば喜んでご協力いたします。

推薦者 上坂 友洋 (理化学研究所 開拓研究本部・主任研究員 / 仁科センター・部長)

山口さんは、反応断面積を通じた原子核研究を進めるのと同時に、重イオン蓄積リングを用いた物理研究で国際的に著名な方です。ここ何年かは、GSI/FAIRのILIMA (Isomeric Beams, Lifetimes and Masses)コラボレーションの代表者として活躍され、特にヨーロッパ、中国の原子核物理学者と強い連携をお持ちです。また、今年度突如浮上したHIMACの物理共同利用停止についても、共同利用再開への意欲を持ちアクションを行っておられます。前回の選挙直後より、核物理委員会のメンバーをこれまでのように実質固定化せず、多くの方に関与していただく方向性が核物理委員会の中で議論されていますが、そのような観点から核物理委員会に加わっていただきたいと考えています。

若狭 智嗣 (九州大学 理学研究院・教授)

核物理委員にご推薦頂きありがとうございます。委員に選出された際には、原子核物理分野の発展に微力ながら貢献させて頂ければと存じます。

大学の学部・大学院に籍を置く立場からは、広義の若手育成が重要と考えております。原子核分野が進めるJPARC・RIBFにおける大規模プロジェクトは当然として、(自身は退職後となるかも知れませんが) その先・10数年先の将来構想・計画を魅力あるものとして提案していくことも重要と考えており、その議論に加わりたいと考えております。

また、大学付属の小規模な加速器センター長の立場からは、前述の大規模計画や将来構想を実現していく上でも、そのような小規模施設が果たすべき教育・研究効果は極めて大きいと考えています。必ずしも研究者として残らない人も含めた幅広い教育・研究を丁寧に行う事は、原子核分野の社会的地位の維持・向上に役立つと共に、若手研究者に取っても貴重な場を設けることになると思います。現実には取り巻く環境は極めて厳しいですが、他の小規模施設や大規模施設との連携、あるいは大学間の連携も含めて、様々な形で広義の若手育成環境の維持・拡充に尽力できればと考えております。

推薦者 関口 仁子 (東京工業大学 理学院・教授)

若狭さんは、九州大学の理学研究院教授、及び加速器・ビーム応用科学センター長として実験核物理分野を牽引されるお立場にあります。その深い見識と洞察力に基づく采配ぶりは、大阪大学核物理研究センターの運営委員会等においても発揮されています。日本の実験核物理学を代表する方として、是非、核物理委員会に参画して頂きたい方です。

渡邊 裕 (KEK 素核研 和光原子核科学センター・教授)

次期核物理委員会委員の候補にご推薦いただきましてどうも有り難うございます。日本の核物理研究は大小様々な教育機関、研究機関において推進されており、特徴ある加速器施設や実験装置を用いた世界をリードする実験的研究も数多くあります。RIビーム施設としては理研RIBFが世界を牽引しておりますが、2022年に始動した米国FRIBに続き、欧州FAIR、中国HIAF、韓国RAONなどの競合施設が今後次々と運用を開始し、激動の時代へと突入します。一方日本では物価高、電気代の高騰、人員確保の厳しさなど、実験的研究を進める上での困難を日々痛感しております。核物理研究に関わる各機関、各分野の間の連携、交流を推進することで、日本の核物理研究の多様性を確保しつつコミュニティ全体を最大限に発展させられるよう、尽力いたします。

推薦者 和田 道治 (KEK 素核研 和光原子核科学センター・教授)

渡邊裕氏は、KEK素核研和光原子核科学センターの新教授として、多核子移行反応を用いた次世代の短寿命原子核研究をリードしています。この反応によってこれまで未踏の領域であったアクチノイドの中性子過剰核を開拓しようとしています。この研究は、日本の原子核物理研究の重要な一翼を担うものであり、核物理委員として当該分野を発展させるとともに、分野間の交流を推進して核物理全体の興隆に貢献することが期待できます。
